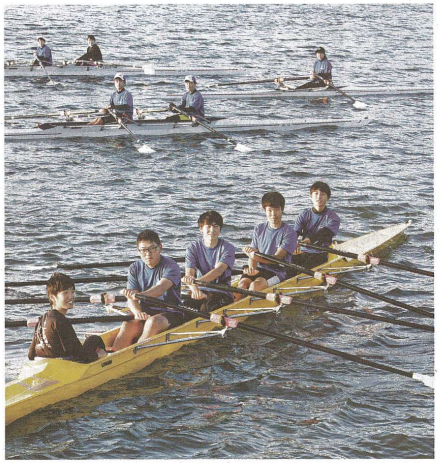
月刊 紀伊スポーツ

目指せ全国

高校総体特集

県高校総体が25日から本格的に始まる。紀南の高校には、県内でも数少ないクラブがある。歴史あるクラブもあれば、比較的創部の新しいクラブも。インターハイを目指し練習する生徒を紹介する。

120年の伝統守る　田辺 ボート部



文里港で練習に励むボート部員（田辺市新庄町で）

田辺高校漕艇（ボート）部は、同校の前身である田辺中学校時代の1899年に創部した。来年で創部120年を迎える。

部員は3年生14人、2年生8人、1年生8人。新しい競技に挑戦しようと入部する生徒が多い。このうち女子は3年生3人、1年生1人。

25日から日高川町で始まる県総体には、舵手付きクォドルプル（舵手1人、4人こぎ）、ダブルスカル（2人こぎ）、シングルスカル（1人こぎ）の3種目に出場。コースはいずれも直線1000㍍。田辺、桐蔭、和歌山北の3校で競う。

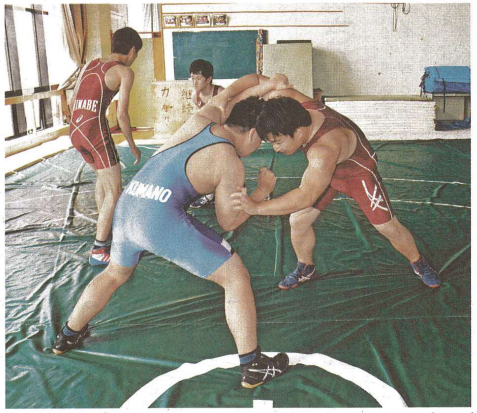
田辺市新庄町の文里港で練習し、艇庫と部室もある。海に出ない日は艇庫にある器具でこぐ練習をしている。

主将で3年生の石上裕之君は「総体では自分たちの最大限の力を発揮し、インターハイ出場を目指す」と意気込みを語る。

3年の松場千紘さんは「みんなのキャラが良く、やる時はやるメンバー。ボートを通じて諦めない気持ちを学んだ」と話している。

南部・熊野 レスリング部

合同練習で力付ける



合同練習に励む南部と熊野のレスリング部員（みなべ町芝で）

南部高校と熊野高校のレスリング部は月に2、3回、主に南部高レスリング場で合同練習をしている。部員は南部が4人、熊野が1人。人数は少ないが、互いに刺激し合いながら力を付けている。

南部、熊野とも1970年代に創部し、過去にはそれぞれインターハイの上位入賞者を出した。近年は部員数の減少で休部状態が続き、それぞれ現在の部員が入部して活動を再開した。25日から和歌山市で始まる県総体（8校参加）の個人戦で上位に入り、近畿大会出場を目指す。

南部の部員は、主将の山田真之介君（3年）、吉見明人君（同）、宮平幸輝君（同）、山田君の弟煌君（1年）の4人。4人とも高校からレスリングを始めた。真之介君は「頑張ったら強くなれることや、諦めない気持ちを学んだ」と話す。

熊野の岩城龍君（2年）は、小学生の時にレスリングの指導を受けた外部コーチの永野要祐さん（69）の誘いで入部した。放課後は1人で階段ダッシュや筋力トレーニングをこなし、夜は週3回、永野さんが指導する少年クラブの練習にも参加。「レスリングは体だけでなく精神面も鍛えられる。南部との合同練習は楽しい」と話している。

新施設で記録向上へ

トレーニングルームで鍛える ウエイトリフティング部員（田辺市あけぼので）

田辺工業 ウエートリフティング部

田辺工業高校ウエートリフティング部は創部して35年。過去には、インターハイで8位入賞した部員もいる。現在、県内にウエートリフティングが部がある高校は5校あり、紀南では田辺工業のみ。

練習場が、昨年までの吹きさらしの状態から新築のトレーニングルームになった。雨風を防ぐことができ、鏡で前後のフォームを確認できるなど練習環境が向上した。

今春、6人が入り、部員数は計10人。6月1日から和歌山市で始まる県総体で全国出場枠に入れるよう、日々、記録向上に挑んでいる。大会では、バーベルを一気に引き上げる「スナッチ」といったん胸まで上げてから頭上に上げる「クリーン&ジャーク」の合計記録を競う。

主将の場谷瞭君（3年）は「どんな重いものを持ち上げられるようになっていって、その積み重ねが達成感や自信につながっている。3年生3人は普段の練習で標準記録を突破できているので、本番でも実力を発揮したい」と意気込みを語っている。

神島 アーチェリー部

忍耐強く矢を放つ

的を狙うアーチェリー部員（田辺市文里2丁目で）

神島高校アーチェリー部は1994年創部。全国総体で1、98年に団体6位、2000年に個人7位の成績を残している。県内でアーチェリー部がある各高校はほかに、和歌山と貴志川のみ。

1試合で72射を放つ忍耐力や弓を引く筋力、瞬間の集中力などが必要な競技。屋外でプレーするので風の影響を考えることや、道具の整備も重要となる。神島では現在、1年生2人、2年生5人、3年生3人が所属しており、各自がベストを出せるフォームや感覚を身に付けようと練習に励んでいる。

6月2日から日高川町で始まる県総体では、70㍍離れた所にある大きさ122㌢の的に当てる。72本の矢を放つ。1射の最高点は中央の10点。高校から競技を始めた1年生では70㍍の距離を飛ばせないため、出場するのは主に2、3年生になる。

主将の山本凱斗君（3年）は「練習を重ねるほど上達でき、自分の実力が点数で出るので成長が分かりやすい。きれいに中央に当たったときは楽しい。県総体ではインターハイ出場を目指す」と話している。

的に刺さった矢の点数の合計を競う。